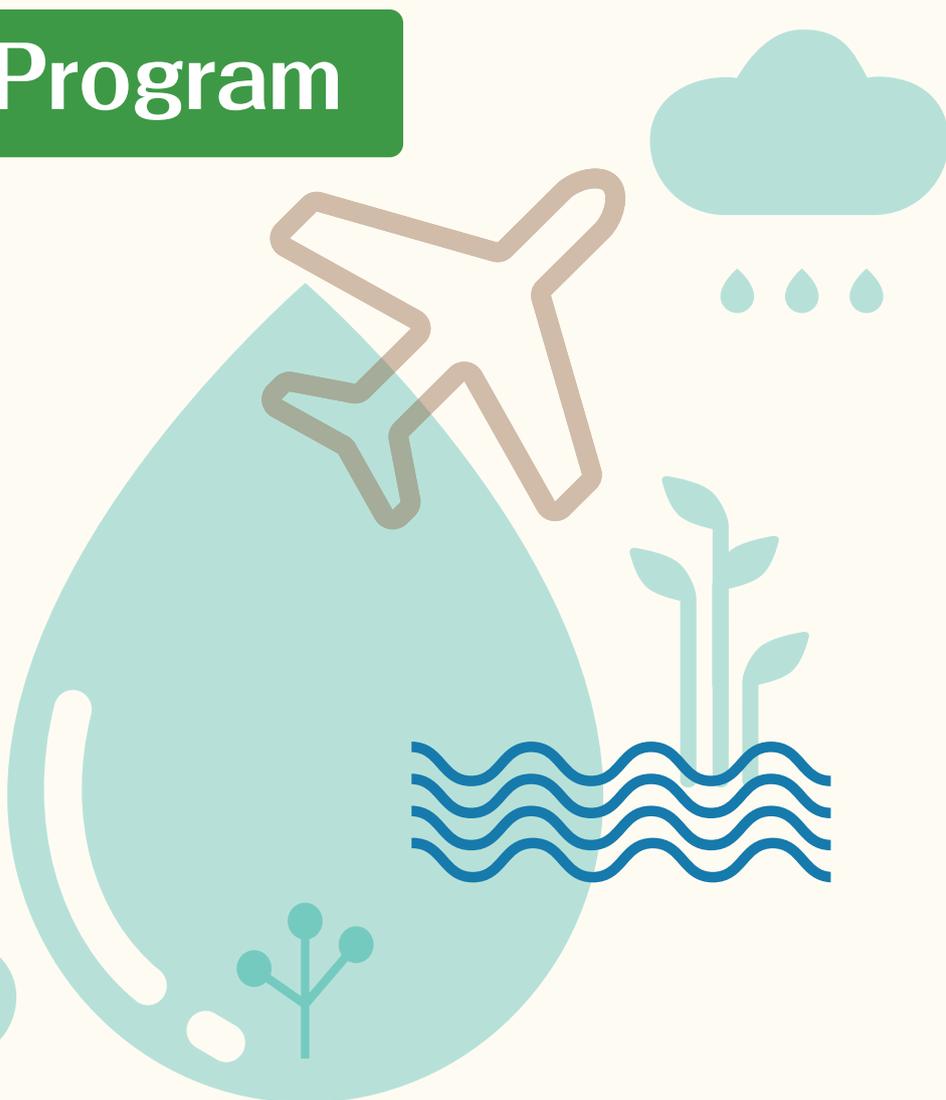
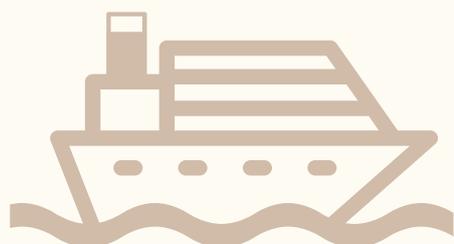


日本移民学会

第26回年次大会

The 26th Annual Conference at Hannan University

Program



2016年6月25日(土)、6月26日(日)

阪南大学 本キャンパス4号館 (大阪府松原市天美東5-4-33)

《問合せ先》

【大会実行委員会】南川 文里

[E-mail] 2013jams@gmail.com

【大会校担当者】守屋友江

[E-mail] 2016jamspre@gmail.com



日本移民学会

検索

<http://imingakkai.jp>

大会テーマ

「いま移民研究に何ができるのか？」

現代の移民や国際人口移動をめぐる課題は、これまでの国際社会の基本的枠組を大きく揺るがしている。2014年頃から深刻化していた地中海地域における難民の波は、ヨーロッパにおける難民受け入れの理念や地域統合のあり方を変えようとしている。とりわけ、フランスやベルギーなどで相次いだ同時多発テロ事件は、ヨーロッパにおける国境管理や安全保障のあり方、そしてイスラム圏からの移住者を長く受け入れてきた社会のあり方を問いなおした。アメリカでは、メキシコ系移民やムスリムの排除を臆面なく主張する政治家が支持を集め、白人優越主義や排外主義が目立っている。日本では、東京オリンピックを見据えた需要にもとづいた外国人労働者政策や、少子高齢化危機に対する「移民」受け入れ政策が議論される一方で、消極的なヘイトスピーチ対策や1%に満たない難民認定率に批判が集まった。2016年は、これまでになく移民・難民が人々の注目を集め、その是非が各所で論じられ

ている。人の移動を扱ってきた移民研究は、このような現実に対してどのように関与することができるだろうか。第26回の日本移民学会大会シンポジウムでは、現代の人の移動をめぐる枠組を揺るがす「難民」をめぐる課題に焦点を当て、日本における難民受け入れのあり方、ヨーロッパにおける現状、そして難民研究の可能性について議論したい。それは、移民をめぐる理論的分析枠組、歴史的経験、現状分析を蓄積してきた移民研究が、現在進行形で変化しつづける課題に対して、いかにアプローチできるのか、その現実的な危機に対して、どのような視点を提供できるのかといった議論を呼び起こすことになるだろう。また、2日目午後のラウンドテーブルでは、会員の幅広い研究活動を反映して、6つのセッションが提供された。多彩な移民研究の可能性について、じっくりと議論する機会となることを願いたい。

大会企画委員長 南川 文里

プレ企画

2016.6.24 [Fri]

15:00 ~ 「インナーシティにおける外国人旅行者・滞在者の諸相」(阪南大学あべのハルカスキャンパス集合)

※詳細は、同封のチラシをご覧ください

第1日目

2016.6.25 [Sat]

10:00-11:00

四役合同会議 (425 教室)

11:00-12:00

第2回運営委員会ならびに暫定理事会合同会議 (425 教室)

12:30

受付開始 (4号館1階ホール)

13:00-17:00

大会企画シンポジウム「『移民と難民：いま移民研究に何ができるのか』 (421 教室)

【司会】佐原彩子 (大月短期大学)

【基調講演】石川えり (難民支援協会)「日本における難民の現状・課題：支援の視点から」

【報告】昔農英明 (明治大学)「難民をどのように統合するのか：ドイツの事例」

久保忠行 (大妻女子大学)「難民の人類学：ビルマ難民の生活世界と難民経験」

【コメンテーター】塩原良和 (慶應義塾大学)

17:15-18:15

総会 (421 教室)

18:30-20:30

懇親会 ※若手研究者紹介コーナーあり。ぜひご参加下さい。

会場：生協フードコート (3号館コミュニティプラザ)

第2日目

2016.6.26 [Sun]

10:00-10:30

第1回理事会 (425 教室)

10:00

受付開始 (4号館1階ホール)

10:00-10:20

自由論題報告者と司会者打合せ (各会場)

10:30-12:25

自由論題報告 ※右ページの表参照

12:30-13:30

昼食休憩 (昼食は生協フードコートをご利用下さい)

13:30-16:00

ラウンドテーブル ※右ページの表参照

A会場（412 教室）		司会：北脇実千代、山口知子
10:30-11:05	大森万里子（九州大学・院）	1910～1930年代米国カリフォルニアにおける児童保護事業 — 羅府日本人人道会から南加小児園への展開を中心に
11:10-10:45	松平けあき（上智大学・院）	日系アメリカ人語学兵の戦後従軍におけるポストコロナル経験 — コリアンとの関わりを中心に
11:50-12:25	柏尾有祐（立命館大学・院）	Desert Exile の出版をめぐるの Yoshiko Uchida とワシントン大学出版局の 意図をめぐる、1980年代の日系人の自伝をめぐる社会の視点

B会場（415 教室）		司会：中山大将、佐藤量
10:30-11:05	パイチャゼ、スヴェトラナ（北海道大学）	サハリン残留者・帰国者の言語、アイデンティティと教育
11:10-11:45	前田桂子（高知大学・院）	北海道国有未開地処分法による許可移民事業 — 根釧地域における高知県移住者の事例分析
11:50-12:25	張龍龍（早稲田大学・院）	中国帰国者二世の定着過程—帰国事業政策の影響による分析

C会場（418 教室）		司会：永田貴聖、佃陽子
10:30-11:05	拝野寿美子（神奈川大学）	継承語教育は何をもたらすのか — 教育実践者=ブラジル人女性移住者であることとの関連において
11:10-11:45	山田亜紀（筑波大学）	アメリカにおける新一世家族の教育ストラテジー
11:50-12:25	李定恩（立命館大学・院）	フィリピンの語学学校で英語を学ぶ — 韓国人留学生の社会経済条件と留学動機は何か

A会場（413 教室）「日本におけるロシア系移民の教育・過去と現在」

- 【発表者】パイチャゼ・スヴェトラナ（北海道大学）「札幌におけるロシア人コミュニティと母語教育の特徴」
 パソヴァ・オリガ（一橋大学）「現代日本におけるロシア系移民の母語・継承後教育をめぐる—東京を中心に」
 倉田有佳（ロシア極東連邦総合大学函館校）「1920-30年代の在日亡命ロシア人社会とロシア人学校 —学校に託された願い」

B会場（414 教室）「西洋社会におけるムスリム二世世代のアイデンティティ表象——文学とヒップホップ音楽を切り口に」

- 【司会】東聖子（近畿大学）
 【発表者】栗田知宏（東京外国語大学）「『テロの時代』におけるムスリム・ヒップホップ」
 小松久恵（追手門学院大学）「『not in my name』—現代英国でムスリムとして生きるということ」
 ※各報告は映画などの映像作品や楽曲の紹介を交えながら行います

C会場（415 教室）「蘇る後藤潤の物語—ハワイ砂糖キビプランテーション時代のパイオニアの人生とその最期を綴る新ドキュメンタリー紹介（Bringing the Story of Katsu Goto to Life: A preview of a new documentary exploring the life and lynching of a Hawai'i plantation pioneer）」

- 【司会】高木（北山）真理子（愛知学院大学）
 【発表者】堀江里香（名古屋大学）「後藤潤リンチ事件の背景」
 本田正文（University of Hawaii at Hilo）「日本移民研究と後藤潤プロジェクト」
 Patsy Iwasaki（University of Hawaii at Hilo and University of Hawaii at Manoa）「後藤潤プロジェクトの背景」
 加藤喜規（EPS アソシエイト）「神奈川県に残された後藤潤の足跡—墓碑をめぐる」
 Danny Miller（Danny Miller Films）「製作者の視点からみた後藤潤のストーリーの魅力」
 ※ドキュメンタリーの制作過程を含む短縮版フィルムの上映を含みます

D会場（416 教室）「神戸から考えるベトナム難民の過去・現在・未来」

- 【司会・モデレーター】高橋典史（東洋大学）
 【発表者】野上恵美（神戸大学大学院国際文化学研究推進センター）「日本および神戸のベトナム難民の概要」
 中村通宏（日本ベトナム友好協会）「支援者としての立場から」
 ハ・ティ・タン・ガ（神戸定住外国人支援センター）「難民としての立場から」
 MC ナム（ラッパー）「難民の二世の立場から」

